

CASBEE™ 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.1.2)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-------------------------|--------|-------------|
| 建物名称 | (仮称)京都四条烏丸ビル | 階数 | 地下1F 地上8F |
| 建設地 | 京都市下京区綾小路通烏丸西入壹待者町159-1 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 商業地域、準防火地域 | 平均居住人員 | 600 人 |
| 気候区分 | 地域区分IV | 年間使用時間 | 2,000 時間/年 |
| 建物用途 | 事務所、物販店、飲食店 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2010年1月 竣工 | 評価の実施日 | 2008年10月13日 |
| 敷地面積 | 1,394 m ² | 作成者 | 峠 |
| 建築面積 | 1,085 m ² | 確認日 | 2008年10月21日 |
| 延床面積 | 9,405 m ² | 確認者 | 瀬川 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--|--|---|
| 総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 主用途は貸事務所(2~8階)と店舗(1階)である。外観はセトバック・庇・帳壁操作といった手法によりボリュームを分節し、巨大な壁面を露出させないように配慮し、1・2階は旧市街地の町並みに馴染むよう町屋風の勾配屋根を設け、落ち着いた風合いとした。現代的な材料を用いながらも、日本伝統の縦格子のイメージで、京都の歴史的な町並みに調 | その他 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 | |
| Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・遮音性能がT2以上のカーテンウォール、サッシを採用 ・全館冷暖フリーシステムの導入により、個別冷暖切替 | Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・パリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている。 | Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 |
| LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・PAL値221.2と熱負荷を低減 | LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・躯体材料に高炉コンクリートを使用 ・外壁に押出成形FRP板を採用し、再利用可能性を向上 ・N2消火を採用しないで、駐車場はN2消火を採用 | LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・地球温暖化への配慮(ライフサイクルCO ₂ 排出率=87%) |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される